事務事業評価表(公共施設)

評価対象年度平成29年度1次評価日(主幹等)30 年 3 月 30 日2次評価日(課長等)30 年 5 月 31 日

1 事業名	保健センタ	保健センター管理事業 41101							
2 担当部課	部等 健康福	祉部	課等	健康推進課			作成	者 上原	幸代
3 事業概要	体 政 策	ともに支えあい 保健・医療の充 保健センター管	実	かに暮らせる	まち 施 業務		健康づく	りの推進	
	実施義務	なし(選択的事	業)		国県神	補助	なし		
	設置条例	岡谷市保健セン	ター条	:例					

●事業の内容 (DO)

4	施	設の概要・	設置目的 *対象者(誰のため)、意図(どのような状態にしたいのか)
	ţ	施設の概要	各種健診(検診)、各種予防接種、健康教室、栄養教室等を開催する。
	目	対象者	市民
	的	意 図	健康保持、増進を図る。

5	施設の管理	運営状況							
	指定管理者		29年度指定管理料	円					
	施設における 通常業務	各種健診、各種予防接種、健康教室、健康相談、栄養教室等							
	事業の実施内	(29年度に施設で行った運営事業・自主事業など) 保健センターの利用者が安全に利用することができ 清掃業務、勤務時間外の警備保安業務、消防点検業 委託により実施した。	るよう、維持管理、 務、自動ドア保守賞	補修を実施した。 業務については、業務					
	前年度の課題への対応	毎日の点検実施により、修繕箇所の早期発見に努め)t=。						

	区分	27年度	28年度	29年度	30年度 (予算)	
1	施設稼働率	100.0%	100.0%	100. 0%		
	年間開設日数 (日)	243	243	244	244	
	1日の開設時間 (時間)	9	9	9	(
	年間利用可能時間 (時間)	2, 187	2, 187	2, 196	2, 196	
	年間利用実績 (時間)	2, 187	2, 187	2, 196		
2	年間利用者数(人)	23, 955	22, 968	22, 773	22, 773	
	有料利用者数					
	無料利用者数	23, 955	22, 968	22, 773	22, 773	
	減免措置者数	0	0	0	(
3	年間利用件数(件)	0	0	0	(
	有料利用件数					
	無料利用件数					
	減免措置件数					
4	1日あたり利用者数、件数	98. 6	94. 5	93. 3	93. 3	
<u></u>	施設利用状況の説明					

7	コストの推移	*この事業にかかる費用	[単位:円]			
	区分	27年度	28年度	29年度	30年度 (予算)	
	① 直接事業費	1, 508, 914	4, 078, 576	1, 326, 333	1, 729, 000	
	経常経費	1, 433, 314	1, 279, 216	1, 326, 333	1, 729, 000	
	臨時的経費	75, 600	2, 799, 360	0	0	
	* 臨時的経費の説明	* 臨時的経費の説明 平成28年度は相談室の改修				

		区分	27年度	28年度	29年度	30年度 (予算)
2	② 人件費		1, 280, 000	1, 280, 000	1, 280, 000	1, 280, 000
	正規職	員の人数(人)	0. 16	0. 16	0. 16	0. 16
3	合計コ	スト (1+2)	2, 788, 914	5, 358, 576	2, 606, 333	3, 009, 000
	前年度	比		192. 1%	48. 6%	115. 4%
	財源	一般財源	2, 788, 914	5, 358, 576	2, 606, 333	3, 009, 000
	内訳	特定財源				
	* 特定財源の説明					
4	施設使	用料年間収入額	0	0	0	0
<u>(5</u>	年間減	免措置額	0	0	0	0
6	⑥ 受益者負担割合		0.0%	0. 0%	0.0%	0.0%
7	活動一	単位あたりコスト	113	111	114	
	前年度	比		98. 4%	102. 7%	
8	8 コストに関する補足説明					

●事業の評価 (CHECK)

8	妥当性評価 *妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。 妥当性	高	<u>い</u>
	評価項目	はい	いいえ
	① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
	② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
	3 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
	4 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
	⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9	有効性評価 * 有効性=施設の利用状況(項目6/住民の満足度)は向上しているか。 有効性	<u>標準</u>	
	評価項目	はい	いいえ
	① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
	② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
	③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
	④ 施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比 98.7%		0
	⑤ 施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比 0.0%		0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)

課

題 施設の老朽化に伴う維持管理

(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)

職員の巡視により、破損・修繕箇所の早期発見に努めるとともに、大掛かりな補修が必要な場合に は、実施計画を策定していく。 法

改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)12 施策評価による30年度の優先度
*H28年度施策評価表より転記することB

				<u> </u>
13	大規模修繕の予定			
	予定事業費	円	予定時期	
	内			
	容			